

# 衆議院外務委員会ニュース

平成 26.3.7 第 186 回国会第 3 号

3月7日(金)、第3回の委員会が開かれました。

## 1 国際情勢に関する件

- ・岸田外務大臣、加藤内閣官房副長官、三ツ矢外務副大臣、木原外務大臣政務官、若宮防衛大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

### 玉木 雄一郎君(民主)

- ・国家安全保障会議(NSC)が設置されたにもかかわらず、3月3日早朝に行われた北朝鮮によるミサイル発射についての政府発表が同日深夜まで遅れたのは何故か。
- ・政府は3月4日のミサイル発射については公表を見送ったが、発射当時、付近を民間航空機が通過していたとの報道もある。公表するか否かの基準はどうなっているのか。
- ・NSCにおける対外的な情報発信の在り方や関係省庁間の役割分担等について、今回の事案への対応への反省を踏まえ検討する必要があるのではないか。

### 小川 淳也君(民主)

- ・我が国の安全保障上重大な事態に発展していた可能性もある北朝鮮のミサイル発射(2014.3.3)を受けて、NSCを緊急に開催しなかったのは何故か。
- ・北朝鮮のミサイル発射当日に予定されていた日朝赤十字会談の開催に応じたことで、我が国は同ミサイル発射を許容したと誤解される可能性があるのではないか。
- ・ロシアによるクリミア派兵について、我が国はロシアに厳しい姿勢をとる旧西側諸国と共同歩調を取るべきではないか。

### 笠井 亮君(共産)

- ・米軍普天間飛行場の移設先として辺野古での建設が計画されている新基地でのF35Bステルス戦闘機の運用について、沖縄防衛局の職員が、一般論とはいえ運用可能である旨の説明をしたことは事実か。
- ・普天間飛行場には現在24機のMV22オスプレイが配備されており、辺野古の新基地にも同規模が配備されるとの理解で良いか。
- ・有事や緊急事態には、辺野古の新基地に他基地のオスプレイ、C130輸送機、KC130空中給油機等も飛来する可能性があるのではないか。そのための訓練が辺野古で行

われるのであれば、新基地建設に向けた環境影響評価も異なったものとなるのではないか。

### 小熊 慎司君(維新)

- ・ウクライナにおけるロシアの行動は、国家主権を脅かす行為であり、我が国はもう少し厳しい対応をとるべきではないか。
- ・ODAについて、防災分野における取組拡充、国際機関への関与拡充、広報の強化、予算の円安対応など、拡大を図るべきではないか。
- ・大使館等がない途上国での国際協力機構(JICA)の役割は大きく、さらに活動を充実させるためにも、海外協力隊の規模や拠点を強化、拡大していくべきではないか。

### 村上 政俊君(維新)

- ・衛藤内閣総理大臣補佐官が担当する「国政の重要課題」とは何か、また、その所掌範囲に外交政策が含まれるのか。
- ・内閣総理大臣に直接進言できる立場にある内閣総理大臣補佐官が、国会において説明責任を負わないことは問題があるのではないか。
- ・集団的自衛権の憲法解釈を変更する場合の国会における議論のプロセス及び条約等の改正の可能性について岸田外務大臣の考えを伺いたい。

### 青柳 陽一郎君(結い)

- ・ウクライナ情勢について、これまでの5回の日露首脳会談によって築いてきた両国首脳間のホットラインの活用が期待されるが、日露首脳の間接会談の実施を考えているか。
- ・我が国とEUが共同提案する予定の国連人権理事会における北朝鮮人権状況決議の内容は、北朝鮮の人権及び拉致問題の解決につながる強い内容の決議となるのか。

・北朝鮮による弾道ミサイルの発射は、国連安保理決議違反であることが明確である。国連安保理における対応を求めるべきではないか。

## **玉 城 デニー君（生活）**

・北方領土問題について、6月のG8サミットやその後年内に予定されているAPEC首脳会議やプーチン大統領の訪日の機会をとらえ、一步でも同問題解決に向けた行動をとることが肝要であると考え、岸田外務大臣の考えを伺いたい。

・ウクライナ情勢について、我が国はロシアに対しどのような対応をとっているのか。また、対ウクライナ財政支援について我が国ではどのような検討が行われているのか。

・ウクライナ情勢について、ロシアとの良好な関係を維持している我が国は、ロシア・ウクライナ・米国の間のパイプ役となり得ると思料するが、岸田外務大臣の見解を伺いたい。

## **2 在外公館の名称及び位置並びに在外公館に勤務する外務公務員の給与に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第6号）**

・岸田外務大臣から提案理由の説明を聴取しました。